

バイヤー伴走による食品開発力向上事業 2022年4月～2024年2月実施予定 ((公財) くまもと産業支援財団)

【課題】

マーケット重視型の商品開発支援を行ってきたが、課題として下記の2点が明確になった。

- ・ 出口側の目線に立った商品開発になっていない。

- ・ マーケット・ニーズの情報提供や商品開発の助言指導について、財源不足やマンパワー不足等の要因で十分な支援に至っていない。

【目的】

- ・ マーケット・ニーズを掴み、実際に商品開発を手掛けてきた専門家・バイヤーと連携を組み、具体的な商品企画を持っている企業に対して、出口側からの新商品開発支援を実施。

- ・ 同時に、企業の自発的な商品企画・開発力を加速させるため、消費者やバイヤーが手に取りやすい商品のデザインや成分表示、パッケージングなど、商品の差別化を図り、訴求力を高める取組への助成を行う。

【都道府県の施策との連携・親和性】

熊本県では、「熊本県産業成長ビジョン」において、食品や医療、農業など含めた分野を「ライフサイエンス分野」と位置づけて注力することとしている。

【本事業の内容】

1 バイヤーによる商品開発伴走支援 (A事業②)

熊本県内の優れた食品・農産物を集めた通信販売サイト「くまもとプレミアム」(運営：(株)フンドーダイ)の総責任者を務め、自らバイヤーとなって商品を収集している松永千代蔵氏(株)フンドーダイ 副社長)をコーディネータに迎えて、出口から見据えた商品開発の伴走支援を行う。

2 マーケット・ニーズセミナーの開催 (A事業②)

食品関連事業者を対象としたマーケットの動向に関するセミナーを開催し、マーケット・ニーズの変化に関する意識づけを行う。

3 中小企業者等に対する助成金の交付 (A事業①)

ブランディングに対する助成を行う。具体的には、検討している商品のデザイン、成分表示、パッケージングなど商品化において他と差別化を図り、訴求力を高めるための取組に助成する。

4 バイヤーによる個別商談会の開催 (A事業②)

1～3の支援を受けた食品関連事業者を始めとした、食品開発に取り組む食品関連事業者を対象に、松永氏コーディネータによるバイヤーとの個別商談を行い、事業化を促進する。また、こうした商品による、「熊本ならではの商品群」を構築し、商品群としての事業化を目指す。

【成果目標】

- ・ 令和4年度、5年度それぞれ商品化件数 6件

- ・ 令和5年度終了後
 - ①事業化件数3件
 - ②商品群の構成件数3件

【波及効果】

- ・ TSMCの立地やJRの路線見直しなどによる、国内外からの来熊者の増加など、これまでターゲットとしてこなかったような国・地域の消費者のニーズを掴むことで、売上拡大のチャンスが見込まれる。

- ・ 熊本県内の食料品製造業者の売上増加・雇用増となることで、連なる川上の原料供給事業者、川下の卸・小売業者、ロジスティックスなどにも、経済効果が期待できる。

【将来の支援目標】

本事業の成果を受けて創出された「自発的な商品企画を継続してできる熊本県企業」への将来の支援目標は以下とする。

- ①商品企画件数 5件/年
- ②熊本お土産件数 2件/年

